

「グリーンリカバリー（Greenrecovery）」という言葉が取り上げられるようになりました。新型コロナの影響で停滞した経済の再生を図る際に、気候変動への対応や脱炭素社会への移行など環境問題への取り組みも併せて行おうとする政策の一つです。世界の大きな流れとなっています。

この動きに対応するには、次の時代を担う新しい技術を生み、その技術の社会実装に挑戦するといった取り組みが重要になります。以前から滋賀でその動きを生むためのしくみをつくりたいと考えてきました。今回その一端として議会一般質問において、産業振興ビジョン 2030 に掲げた「滋賀を実証実験のフィールドにする」という目標の実現に向けた県の姿勢を問いました。また、そのための高度技術系人材の育成も大変重要なテーマであり、有効な手段の一つとして高等専門学校の設置を提言しているところです。いずれも長期的な視点を持った取り組みとなりますが、未来への布石となるものと考えます。新型コロナにはしっかりと対応しながら、これを乗り越えて、より良い社会に向けた取り組みを進めていく、厳しい時だからなおさら、できる限りワクワクするようなしくみを皆さまと共に創っていきたいと思います。目指す未来はここからです。この一年も皆さまの声をお聞かせください。私も力を尽くしてまいります。

すべてのひとが輝くために
可能性を実現できる滋賀へ

未来への責任

滋賀県議会議員

あきなり

かわい昭成

令和2年11月定例会議 一般質問に立つ

琵琶湖の健康のために 「あしもとから」できること

下の写真は湖岸の清掃に活動を撮影したものです。琵琶湖の清掃活動に参加することで現場の様子を知ったこと、ともに活動をした人達と一緒に考えたことを質問にしました。



近くで見るとプラスチックの破片などゴミがたくさん落ちている

琵琶湖の環境に影響を与えるものは様々にありますが、まずは目に見える「琵琶湖のゴミをなくそう」ということから。知事も今議会の代表質問で琵琶湖にとっても気候変動とプラスチックは新たな課題と認識しているとの見解を示されています。湖岸や湖底の清掃だけではなく、琵琶湖に散らばってから回収するのは効率

が悪い。ゴミがどこから来ているのかを明らかにして、例えば川へのゴミ回収トラップの設置などの事業を行えないか、など提案を行いました。（私たちの周りの散在性ゴミを減らすことはもちろんです。）加えて、多くの人に琵琶湖の状況を知ってもらうための「琵琶湖の映像化」についても提案。これは事業の前後の比較検証や琵琶湖の魅力を発信する効果もあると考えます。また、映像も含めて琵琶湖の様々なデータのアーカイブ作成の必要性も問いました。



集められたごみは分類して種類ごとに量を記録

湖岸での活動の様子。袋はすぐにゴミでいっぱい

そして、これらの財源には、大津市の事例を踏まえてふるさと納税の活用、寄付の仕組みを使えないか、ということも。県からは、いずれも、かなり踏み込んだ前向きな答弁であったと考えています。様々な人に参加してもらえる取り組みになるようにしたいと思います。

11月定例会議 他の一般質問項目

- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・実証実験のフィールド滋賀について

令和2年9月定例会議 一般質問に立つ

悪質クレーム対策について

本来「クレーム」は事業者が耳を傾けるべきものです。サービスや製品の至らない点に気付いて改善することで、よりよいサービスや製品を生み出すことにつながり、結果、事業者の利益とすることができからです。しかし「悪質クレーム」（カスタマー・ハラスメント）は、苦情を伝えるということを超えた“迷惑行為”であり、「クレーム」とは一線を画すもので、顧客と企業のあるべき関係から逸脱しています。これが原因で、精神を病む、体調を崩すなどで、休職や離職となる労働者が少なくありません。さらに企業にとっても労働者を失うだけでなく、機会損失や生産性の低下などの影響があります。社会としての対応が求められると考えます。

まずは、働く現場の切実な声として「悪質クレーム」という問題があると伝えることから、と質問をしました。現状では、事業者側で「悪質クレーム」に備えるしかなく、行政で「備える」ための支援が必要ではないか、など県の考えを問いました。

課題の存在、事業者への支援など対策の必要性については認識の共有ができたと考えます。一方で、消費者への啓発や教育、また、対策などを協議する場の設置については難しいという印象の答弁でした。今回は初めの一歩です。国でも法制化などの動きがありますが、なかなか有効な対策につながりません。地方からも「動き」を作るべく取り組んでいきます。

9月定例会議 他の一般質問項目

- ・しが CO₂ ネットゼロについて

Profile

滋賀県議会議員

かわい昭成

学歴	1992年	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	卒業
	1997年	早稲田大学 理工学部機械工学科	卒業
	1999年	早稲田大学大学院 理工学研究科	修了
経歴	1999年～2018年	東レ株式会社	社員
	2008年～2010年	東レ労働組合	滋賀支部役員
	2011年～2018年	大津市議会議員	
	2016年～2017年	大津市監査委員	
	2019年～	滋賀県議会議員	

会派 チームしが 県議団

常任委員会 総務・企画常任委員会

特別委員会 琵琶湖・気候変動対策特別委員会

高等専門学校が 「ふさわしい」

理工系分野の技術人材の育成機関の設置に向けて検討が進められています。タイトルの一文は、この件に関する知事のコメントです。当初から高専の設置を提言してきましたが、引き続き前進するように取り組みます。

高専はカテゴリーが大学と同じ高等教育であるため、教育指導要領によらない自由なカリキュラム設定が可能で1年次から専門的な教育ができる点が大きな魅力です。学ぶ子どもたちの選択肢が広がります。

滋賀県には日本初の滋賀大データサイエンス学部や滋賀県立大学、周辺には京大などもあり、情報工学「高専」にすれば、関係する機関が「集まる」ので面白いのではないかと思います。デジタル社会を担う人材が不足している状況を改善するばかりでなく、AI や IoT やデータサイエンスなどの技術者が卒業後に起業して滋賀に拠点を置くことにつながるよう取り組むことで県内産業の課題解決や活性化にもつなげられると考えるからです。

いずれにしても、高専の設置は夢のあるワクワクする事業です。実現を目指します。

滋賀県の新型コロナに関連する情報
は県のホームページにまとめられています。ご参照ください。
(右の QR コードを読み取るか、もしくは「滋賀県」で検索。)



facebook

Website